

第1回岩見沢市子ども・子育て会議議事録

日時 平成28年8月26日（金）18:00～19:45

場所 であえーる岩見沢4階 会議室1

委嘱状の交付

- 1 開会
- 2 議事
 - (1) 岩見沢市子ども・子育てプラン 平成27年度対象事業の評価について
 - (2) 平成28年度の主な事業について
 - (3) プラン変更の見通しについて
 - (4) 次年度に向けた取り組みについて
- 3 その他
 - 第2回会議の日程調整について
- 4 閉会

事務局	1 開会 (18:15)
委員 F	2 会長あいさつ
事務局	3 議事 配布資料について説明
事務局	(1) 「岩見沢市子ども・子育てプラン 平成27年度対象事業の評価について」 説明
委員 F	ただいま説明した中での質問のある方はいますか。
委員 J	病後児保育事業についてですが、病児の利用が多く、病後児の利用はほとんどないので、もっと利用人数を増やすのであれば、東町も病児保育としてもらえれば、東町がより使いやすくなるのではないかと思います。
事務局	東保育園の病後児保育については、病後児保育を前提に施設整備をしていることや、認可保育所の併設施設のために、病児を受け入れるということについて保護者の理解を得るのが難しいといった課題があります。病後児保育の利用が極端に少ないのは事実ですので、法人とも協議しながら、こういったやり方が出来る

	かを引き続き検討していきたいと思います。
委員 F	他に拠点を増やしていくということは今のところ考えていないですか。
事務局	現在の利用率ですと、インフルエンザ等が流行る時期は稼働率が比較的高く、利用出来ない方もいたのですが、1年を通しての稼働日数が50%に満たない程度です。なので、まだ間口を増やすというところまではいかない状況です。
委員 F	利用の多いときは早い者勝ちになってしまいますよね。繁忙期に場所が増えると良いのでは。
事務局	繁忙期だけ枠を広げるとなると、その時だけ雇う人や、その時だけ設置する場所が必要になってしまうという悩みがあります。これについては、引き続き利用動向なども研究していきたいと思います。
委員 J	予防接種についてですが、ロタウイルスとおたふく風邪の予防接種に市から補助金を出していただきたいです。特にロタウイルスは死に至る場合もあるので、1,000円でも良いので補助金を出していただければと思っています。
事務局	今いただいた意見は、健康づくり推進課にお伝えしたいと思います。
委員 I	予防接種のことにに関して、接種に来たり、いろいろな事業に積極的に参加したりする方は良いのですが、そういったことに関心を持たない方や、事業に来ない方をどう拾い上げていくかという方策を考えていく必要があると思います。
事務局	えみふるを整備した時に、親子と支援を結びつけるために遊びという要素を使ってみようという考えのもとで整備を行いました。まだ案の段階なので、実際に動き出すまでには少し時間がかかるかと思いますが、保健師や医師等にあそびの広場の中に入っていただいて、相談を受けたり話しかけたりする機会を、1か月に例えば2回程度つくって、その中でいくつか拾い上げていけたらということは考えています。
委員 J	母子手帳アプリのようにスマホを使っているところも出てきているので、そういったものを使うともう少し拾いやすくなると思いますし、予防接種を忘れてたり間違えて2回打ってしまったりを防げると思います。
委員 E	家族健康手帳というアプリがあり、そこに予防接種に関する部分も入れることに関しては健康づくり推進課でも検討しています。

事務局	<p>会議として、アプリに予防接種の部分を入れてほしいという意見を委員からいただいたことを担当にお伝えしたいと思います。</p>
委員 F	<p>児童見守りシステムについて、今は対象が児童期からですが、乳幼児期から連続するような形には出来ないのでしょうか。不審者情報の一斉同報サービス等は、情報提供のうえでとても大事なシステムだと思うのですが、乳幼児期から一貫して情報を受け取れるようにするのは難しいですか。</p>
事務局	<p>どこにチェックポイントを作るかという問題もあるかなと思います。児童見守りシステムについては、まずは小学校からということで始まっていて、今後拡大する方向で考えているとは思いますが。それを中学校へと延ばしていくのか、より下の年齢へと延ばしていくのかということについては、拠点のあり方や拡大に関する考え方によって変わってくると思います。</p>
委員 F	<p>私は I C タグについてはむしろ批判的なのですが、一斉同報サービスの方について、情報伝達という意味で、児童見守りシステムは重要になってくると思います。</p>
事務局	<p>今日いただいた意見を子ども課だけでなく関係課にも降ろしていき、その結果どのような検討となったのかを次の会議でお話ししていくということを繰り返すことによって、事業化等につなげていきたいと考えています。</p>
委員 J	<p>ファミリーサポートに関してですが、18 名が修了したうち 2 名しか登録がなかったことの原因について、資料には託児の問題というような文章がありますが、これはどういうことなのか。</p>
事務局	<p>ファミリーサポートの提供会員になろうと思ったのではなく、勉強のために受けた方もいましたし、講習は受けたものの、1 対 1 で子どもを預かるのは不安があるという方もいて、2 名の登録にとどまりました。ただ、託児の機会を経験することによって 1 対 1 の託児も出来るようになるのではないかと考えて、児童館の支援に入っていたり、P T A の事業の時の託児をファミリーサポートにお願いしたりすることで、今年度新たに 7 名の登録がありました。昨年に講習を受けた方の登録は全部で 9 名になったということになります。なので、託児体験をすることで登録に対する不安等を減らしていこうということで、講習だけではなく体験とセットで実施していけたらと思っています。</p>
委員 J	<p>緊急ファミリーサポートは動き出すのですか。</p>

事務局	大体 20 名くらいの提供会員を確保出来れば可能ではないかと思っています。
委員 J	5 歳児健診の進捗状況はどうか。
委員 E	視察については札幌で実施しました。
委員 J	札幌は全員ではなく希望者のみの健診ですよ。
委員 E	そうです。集団で診るというのも岩見沢としては難しいかなという話も出ています。現在検討していることとしては、先日、北大で 5 歳児健診の研修があり、その中で問診である程度診ていくことも可能だという話があったので、どういったやり方が出来るかということについて検討している段階です。日程的な問題もあるので、もう少し検討が必要かなと考えています。
委員 J	費用はどれくらい掛かりそうですか。
委員 E	事業費としてはそれほど大きくはありませんが、例えば心理士を何人入れるかといったところで変わってくると思います。
委員 F	集団で診るというのは、保育園や幼稚園に行って健診するということですか。
委員 E	保育園や幼稚園で様子を見せてもらうということです。
委員 F	集団の中で発達の遅れ等のある子を見つけるということですね。見つけたらどうするのですか。
委員 J	就学時健診につなげるというのが目的です。3 歳児健診から就学時健診まで期間があるので、3 歳児健診後のフォローをすることで、就学時健診の前までに可能な範囲で拾えればという狙いです。
委員 L	保育園としては、昨年と比べるとかなり巡回相談に来ていただける回数が増えたので助かっています。
委員 F	臨床心理士の方は、集団でいる子どもたちの様子を見るという経験やトレーニングが少ない人が多いのではないかと思うので、トレーニングは必要ですよ。あと、親になるための交流事業ですが、すごく良いなと思いますが、リクルートの仕方はどのようにしているのですか。

事務局	<p>高校生については、岩見沢西高校と岩見沢緑陵高校の授業の中に、赤ちゃんと触れ合うという内容がカリキュラムとして組み込まれていて、学校側からのお申し出によって受け入れをしています。中学生については、授業としてそのような科目があるわけではないので、就業体験として子どもと触れ合いたいという希望がある場合や、就業体験の中で特に内容が特定していない場合について、出来るだけ子育て支援センターやひなたっこでの受け入れが出来るよう、まずはその機会を作っていこうという状況です。</p>
委員 F	<p>やはり授業の枠組みの中でという形でないとなかなか難しいですかね。</p>
事務局	<p>理想としては、学校の授業でそういったものがある時に、協力して下さるお母さんとお子さんに学校に行っていただくというのが面白いやり方かなと思いますが、少しハードルが高いので、今は希望される学生の方に来ていただくという段階です。</p>
委員 F	<p>そこに授業の担当の先生と教育委員会等の専門家が入っているということですか。</p>
事務局	<p>高校の場合は先生が付いていますが、中学生の場合は今のところ就業体験ということですので、それぞれの部署の職員が付いているという状況です。</p>
委員 F	<p>せっかくの機会なので、関心のある人たちを専門家が応援しながら行えるような形が出来れば良いなと思います。例えば、部活動のような形で、関心のある子たちが託児ボランティアの研修を受ける等の活動を行っている自治体もあるようなので、授業の枠組みに囚われない形で何か出来れば良いのかなと思いました。</p> <p>他にご意見等はありませんか。なければ次に移りたいと思います。(2)平成28年度の主な事業について、事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>(2)「平成28年度の主な事業について」説明</p>
委員 F	<p>今の説明について質問等ありますか。</p> <p>あそびの広場は1日当たり420人来るといふとどのようなかんじですか。</p>
事務局	<p>1日当たり420人の日は、広々しているというより混雑したという印象を持たれるかもしれません。1日当たり210人程度だと比較的広々と遊べるといったイメージを持たれるかと思いますが、とても暑い日や雨の日は混み合っているという印象かもしれません。特徴としては、混み合っている日は「ごろごろひろば」</p>

	と「はらっぱひろば」に分散して人がいるというかんじですが、空いている時は「はらっぱひろば」の方が人気が高いようです。
委員 F	特にけがのトラブルとか入替え制について問題とかは起こっていないですか。
事務局	今のところ、けが等のトラブルはありません。クール制で入替えというの、徐々に口コミで広がって定着してきています。
委員 J	札幌や江別からも意外と来ていますよね。栗山や三笠よりも利用が多いようですね。
事務局	札幌は2番目に利用が多いですね。PRとして札幌で配られているフリーペーパー等に広告を出しているという影響もあるかと思います。
委員 F	子育てガイドブックはいかがですか。対象は生まれてから小学校に入る前までくらいですよ。不登校とか非行等に関することも情報としてはありますが、その部分に関しては子育てガイドブックに載せる内容ではないということですよね。
事務局	その中に載せるのが良いのか、小学校以降に個別に配るのが良いのかというところですよ。生まれた時にもらって小学校に入るまで持ち続ける方は多くないと思いますので。
委員 F	改訂もされるでしょうからね。
委員 H	えみふるの状況についてですが、中学生の利用はどうか。
事務局	今のところ中学生、高校生の利用はほとんどない状況です。そこで、利用率を上げるために、指定管理者の方で中高生を対象としたヨガ教室を企画して、ダンスをやっている子どもたち等に声をかけています。ヨガを習うのは無料で、あそびの広場の中に入るのに100円だけ負担してもらおうという形で企画しています。まずは中に入ってもらうという機会を作ることで、口コミで広がっていったらと思っています。中学生以上の利用を増やすことについては、どういったやり方が良いのか、私どもも手探りの状態なので、何か良いアイデアがあればぜひお寄せいただければと思います。
委員 H	中学生や高校生は見ていると自習スペースでいつもすごく真剣に勉強されているのですが、例えば息抜きの時間としてあそびの広場が使えるようになると、

	両方の意味があって通う習慣も出来るのかなと思います。子どもたちのストレスを軽減するような場として、うまく使えると良いのかなと思いました。
事務局	中学生以上が入れることを知らない子もまだまだいると思うので、事業を企画したり、ビラを配布したり、報道機関に取材していただいたり様々な手段を通じて少しずつ広げていければと思います。
委員 H	東京から親戚が来た時に広場を使ったのですが、東京でもないくらい本がたくさんあって、すごく良い環境だったと言っていましたので、ぜひPRの方もしっかりとしてもらえればと思います。
事務局	PRも工夫して進めていきたいと思います。
委員 I	一時預かりというのは、子育てガイドブックに載っているのですか。
事務局	20 ページ上段に記載があります。公的に行っているのは認可保育所での一時預かりですので、それを載せています。一時預かりというのはお母さんたちの関心がすごく高い分野で、一時預かりに関する内容だけを一枚の紙にまとめたものを窓口で配っています。その中には公的なもの以外に、民間で行っている有料のもの等の情報も載せています。
委員 I	一時預かりはけっこうニーズが高いのかなといつも思っていました。
事務局	年々ニーズが高まっていると感じます。それに応えるためにも、なんとかファミリーサポートが立ち上がればと思っています。
委員 H	ファミリーサポートですが、7月に市P連の方に託児に来ていただいて、大変助かったということでぜひまた来年もという声がお母さん方からあがっていました。お母さん方の中で声を掛け合って、ファミリーサポートの講習にということも可能かもしれませんし、母親委員会の皆さんも意識の高い方が多いので、機会があれば話を聞いてみたいという方や、出来るのであれば自分の子どもが落ち着いたらやってみようという方もいるかもしれないので、いろいろと交流しながら利用していただければと思います。
事務局	P T Aの託児をファミリーサポートでなんとか出来ないかという時に、母親委員会を紹介していただき、そこに繋いでいただいて実現出来たので、そういった形でまたP T Aとも絡んでファミリーサポートの立ち上げに繋げていければと思います。

委員 F	他にありませんか。次に（３）プラン変更の見通しについて、事務局から説明をお願いします。
事務局	（３）「プラン変更の見通しについて」説明
委員 F	今の説明について質問等ありますか。
委員 J	地域型保育を実施するのはどこですか。
事務局	まだ正式な文書等はこれからなのですが、聖十字広場ぽけっとが予定しています。
委員 J	栗沢こども園については人数はあまり変わらないのですか。
事務局	認定こども園は、このプランを作る段階で既に練り込まれていますので変更はありません。これについては見込みということで、３月の会議でまたご説明したいと思います。
委員 F	他よろしいですか。次に、（４）「次年度に向けた取り組みについて」ですが、以前に送付された次第にあったように、皆さんから次年度に向けたご意見やご感想を伺いたいと思います。
委員 J	新生児聴力検査を始めているのですが、補助金が出ると有り難いです。あと、先ほど言いましたロタワクチンの補助金と、５歳児健診が出来ればいいなと思います。子どもの心の相談外来についてですが、中高生の拒食症や自殺に関する枠が溢れかえっていて、心理士が常駐していないという問題があるので、思春期カウンセリングのシステムがうまく動くようになると良いなと思います。また、小児科の市外の子どもの受け入れについて、どの程度市内のサービスに組み込んで良いのかといったことを話し合う場があれば良いなと感じています。
事務局	市外の方にいろいろなサービスを使えるかどうかについては、広域的に協議する必要があるかと思います。対象としては三笠、栗山、美唄くらいですか。
委員 J	岩見沢市以外で小児科医がいるのは栗山だけですし、当別や新篠津からも来ます。そういったことをどこで話し合ったら良いのか、いろいろな場で発言しているのですが、この場でも意見として挙げておこうと思いました。
事務局	どこと協議したら良いのかということについて今すぐにはお答え出来ませんが、課題としてあるということで参考にさせていただきます。

委員 I	えみふるを作る時に、その場において見守りとか相談を受ける等のボランティアの人的資源の開発という話があったと思いますが、今日の話には出ていなかったもので、ぜひそこは取組んでほしいと思います。
事務局	えみふるのボランティアについては、ボランティアの内容を特定せずに登録してくださっている方が何人かいらっしゃるのですが、相談やカウンセリングといったレベルではなく、一緒に遊ぶといったイメージかと思います。
委員 I	その場において何気ない話をするというだけでもとても大事なかなと思いますので。
事務局	どなたでも登録いただければボランティアとして来ていただけますので、もしお時間があれば1回でも2回でも来ていただければと思います。
委員 E	最近問い合わせが続いたのが、お母さんが病気になったときにお子さんを預かってもらえるところがないかということで、そういう枠が少し広がると良いかなと思います。
事務局	ショートステイが出来るようになったので、それを利用するのも一つの方法かなと思いますが、長い時間預けるのは抵抗がある保護者の方もいると思うので、検討したいと思います。
委員 H	先ほども申しましたが、えみふるの中学生以上の利用について、今年度は少し模索していただければと思います。
委員 D	児童館について、平成 30 年度を目処に高学年拡大が行われるということですが、周りのお母さん方からは少しでも早く拡大されればという声も聞いていますし、不審者情報等もけっこう頻繁に来るので、出来るだけ早く実現できれば良いかなと思います。あと、よろず相談のようなものがあつたら良いかなと思います。小さなことでも気軽に聞けたり、病院に行くまではいかないような簡単な相談等がワンストップで出来る場所があると、安心かなと思います。また、母親学級や健診に来るような方はもちろん意識の高いお母さんだと思うのですが、逆のお母さんをどう拾い上げて母親として導いていくかということが大事な課題だと思います。それと、先日、市教委主催の能楽体験ツアーに参加したのですが、親子で参加できるような行事というのは大事だなと思いました。近所にも両親が共働きで忙しく、長期休業でも家族でどこにも遊びに行けないという子もいるので、親子で遊べるイベントなんかも企画していただけると良いのかなと思います。

委員 K	<p>ファミリーサポートについて、小さいお子さんを対象としているようですが、児童館でも急に保護者が迎えに来られなくなる等のスポット的な支援が必要になる場合があります。例えば首都圏では、民間の方が中心となって保育所や児童館等の送迎の支援をワンコインで行うような事業があり、一年に一度、顔見せの交流会を開くシステムで、会員制として行われているようです。岩見沢市でどれだけの需要があるかはわかりませんが、市民の自発的な動きを支援していく形でのファミリーサポートによる解決というのも出来るのではないかなと思います。資格とか講習を受けなければいけないということになると敷居が高くなりすぎてしまうので、友達の輪を広げるというようなイメージでの支援というのものではないかなと思います。</p>
事務局	<p>これまでも既に、ファミリーサポートはおはおで児童館の送迎も行われていたようなのですが、提供会員が少ないためにあまり知られていないというところもあったかと思います。今、提供会員が増えてきているので、そのようなニーズのあるところを発掘していけたらと思います。</p>
委員 G	<p>幼稚園に関しては、ハンディキャップのあるお子さんが非常に多くて、積極的に受け入れてきて3年が経ちます。いろいろなお子さんと関わったり、行政や学校、保健師の方と関わって、5歳児健診があれば良いなということはずっと思っていました。でも実際には、幼稚園は3歳児健診と5歳児健診の間の空白期間をお預かりしているということで、やはり5歳では遅いかなという思いもあります。4歳くらいまでの間にハンディキャップのあることを見極めて、しかるべき対応をとって、しっかり学校へ送ってあげたいという気持ちを強く持っています。行政にはたくさん事業や窓口がありますが、そこに辿り着けない方がたくさんいるのを見てきているので、保育園や幼稚園が窓口であるべきだなと感じています。近年は保健師さんの巡回をお願いすると来ていただけるようにもなって、有り難く感じています。ただ、ハンディキャップがあるとわかっても通所施設がいっぱい通えない子がたくさんいることも事実です。せめて、幼稚園側でそれに気づいて親御さんに指導が出来るようにしたいと思いますので、そのようなお子さんの通える場の門をもう少し広くしていただけたらというのが一番の願いです。</p>
事務局	<p>通所施設の受け入れ枠の拡大という問題もあるかと思いますが、通所施設についてはまた新たに開設されるのではないかという情報もあり、岩見沢は施設の箇所数としては比較的増えてきているので、次の会議でもまた情報をお知らせしたいと思います。</p>
委員 L	<p>今のことに関してですが、ハンディキャップのある子を受け入れていくということは、例えば一人のお子さんに一人の保育士が付きっきりで見ることがある場合もあり、それだけ経費が掛かることとなります。しかし、国からの補助金は決</p>

	<p>まった額しか出ないので、自園で賄うしかないというのが現実です。岩見沢法人立保育園連盟の方で国に要望していますが、市の方でもいくらか補助をしていたけると有り難いです。</p>
事務局	<p>障害児保育に対する運営費については、子ども・子育て支援新制度となってから加算額として練り込まれてきて拡大傾向にはあるのですが、消費税が上がっていないので、まだ広がっていないというのが現状です。市が単独でどこまで出来るかというのは難しい部分もあるのですが、今後、消費税の状況等も見ながら、情報提供も含めて、検討していきたいと思います。</p>
委員 A	<p>岩見沢市はいろいろなことをやっていただいているなという感想を抱いています。ただ、それがなかなか本当に必要なところに浸透していかないという部分の一つの課題であるのかなと思います。また、全部を市で行うというのは難しいので、それをサポート出来る体制をどう作り上げていくのかというのが大事で、そのことが本当に必要なところに支援が行き届いていくことに繋がるのかなと思います。それを作り上げるための道筋を作っていただくために、行政の方で手を尽くしていただければと考えています。また、発達障がいの子を受け入れてくれる幼稚園が増えてきていると感じますが、やはり経営的な問題もあるということで、そのような部分の手厚い支援をお願いしたいと思います。あと、先ほど一時預かりの話がありましたが、うちの施設でショートステイやトワイライトステイをやっているのですが、限られた施設でやっているため一日一人くらいしか受け入れることが出来ません。そういった部分については行政の方でも手を広げていく必要があるのかなと思います。子育ての困り感というのはいろいろな部分で見ているので、本当に困っているところに対する支援を手厚くしていただけたらと思います。</p>
委員 F	<p>思春期の方たちの支援というのも大切だと思います。乳幼児期についてはある程度道筋があって、やっていくことが出来ますが、思春期になると悩みも個別のようになって個別の対応が多くなってくるので、臨床心理士や医師等のスペシャリストをしっかり雇えるような仕組みが岩見沢市にもう少し出来たら良いなと思います。あとは、ボランティアをどう開発していくかというのも大切だと思います。やる気のある方はたくさんいるので、研修の機会を提供していくことで、えみふる等の施設やサービスと利用者との繋いでくれる人たちを育てていく必要があると思います。例えば PTA や JC や、いろいろな人を巻き込みながら、ボランティアという発想をもっと定着させていけると良いですね。時間がある人は時間を提供する、お金がある人はお金を提供する、物がある人は物を提供する、そういうのが当たり前になるようなネットワークづくりがもっと岩見沢市で出来たら良いなと思いました。それから、今回、熊本地震の関係で全国学会に行ってきた</p>

	<p>のですが、行政の中に専門家がいるということが外部からの支援を受けるうえで すごく重要になってくるということで、特に今回の支援ではっきりしたのは、震 災関係だと学校はスクールカウンセラーが入るシステムが出来ていますが、避難 所にいる乳幼児や母親、障がいのある子、高齢者等に対する支援については非常 に手薄になり、ストレスフルでリスクが高いということがわかりました。岩見沢 市も決して何もないとは言えないので、そういう点も検討する余地があるのかな と思いました。</p>
事務局	<p>ありがとうございました。今日いただいた意見はこれから検討し、3月の会議 でこれらがどのように反映されたのか、検討に繋がったのかということをお知ら せしたいと思います。</p>
委員 F	<p>他に何か質問や意見等ありませんか。無いようですので、それでは今日の議事 はこれで終わりにしたいと思います。</p>
事務局	<p>4 閉会 (19:45)</p>